

産学官連携人材育成支援 Gr.

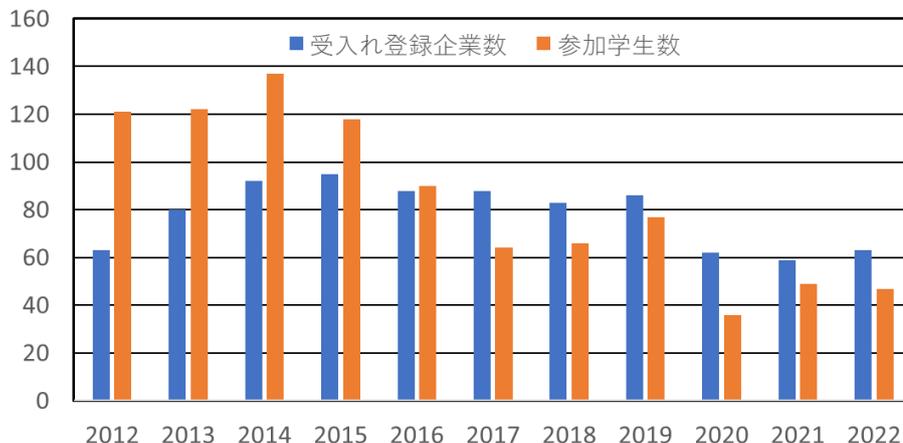
1. 北九州地域連携型インターンシップに関する事業

この事業は、北九州地域産業人材育成フォーラムからの委託により地域の活性化を目指して2011年度から継続している。KTSの役割は、インターンシップの学生受入れ企業の開拓とコーディネート業務である。

1) 研修型(短期)インターンシップに関する事業

研修型(短期)インターンシップは、夏休み期間の1~2週間を利用したものであるが、北九州地域にある理工系大学、北九州高専、産業医科大などの学生にインターンシップを通じて地域のものづくり企業を良く理解し、地域企業への就職率を高める狙いがある。下の図は、研修型(短期)インターンシップの受入れ登録企業数と参加学生数の2012年度からの推移を示している。2015年度からは学生の就職環境が売り手市場に好転したことから受入決定学生数が減少傾向にあり、2020年度からは、コロナ禍のため受入れ登録企業数と参加学生数ともに減少する結果が続いている。2022年は地域のものづくり企業200社に対してKTSのコーディネーター15名が手分けして打診した結果、受入れ登録企業数が回復する兆しを見せた。

研修型インターンシップの受入れ企業数と参加学生数の推移



2) 実践型(長期)インターンシップに関する事業

実践型(長期)インターンシップは、将来の産業を担う人材育成のため、3ヶ月から半年の期間で行うもので、学生の教育効果が高く、企業にとっても手が付かなかった課題解決にもつながるものである。しかし、学校側の時間割等の制約から、対象は九工大と北九州高専の学生に限られている。2022年度は、コロナ禍が続く状況であったが地域のものづくり企業200社に対してKTSのコーディネーター15名が手分けして打診した結果、12社から受入れ登録があり、5名の学生が研修を行った。

3) 北九州高専長期インターンシップに関する事業

北九州高専は、本科4年生と専攻科2年生を対象として教育効果の高い2ヶ月から4カ月間の期間で行う長期インターンシップを実施しているが、KTSのコーディネーターは、受入先企業の紹介を行っている。

2022年度は、北九州高専がコロナ禍のためオンライン実習が可能な情報システム系に限定したため、情報サービス産業に絞って6社を紹介することが出来た。

2. 「北九州市風力発電人材育成連絡会」の業務支援に関する事業

北九州市は、約10年前から洋上風力発電を製鉄と自動車に次ぐ第3の産業に育成することを目指して産業集積と基盤整備を図っている。しかし、欧米に比べて我が国の洋上風力発電の取り組みが遅れており、入札制度の整備と共に関連技術の確立、人材育成が喫緊の課題として取り上げられている。このため、北九州市は、風力発電関連産業の総合拠点化を支える風力発電関連企業の人材確保に向けて、本市や周辺地域において関連産業の担い手を安定的に育成、供給するための体制づくりとして、市内の教育機関と風力発電関連企業が意見交換を行う「北九州市風力発電人材育成連絡会」の活用と全国の学生や教員等を対象に洋上風力発電や関連産業の認知度の向上を図る「北九州市洋上風力キャンプ」の取組みを2020年度から開始した。

2022年度は、契約の関係で7月からの業務開始になったが、「北九州市風力発電人材育成連絡会」を構成する企業7社の内、石橋製作所、ニッスイマリン工業、日本鉄塔工業の3社と教育機関7校との個別意見交換打合せ17回をはじめ教育機関への企業説明会7回、工場見学3回、インターンシップ1回を通じて、学生が風力発電について「見る」「触れる」「考える」機会を提供する業務支援によって関連企業への学生の関心を高め、就職を後押しする活動を行なった。

3. サポイン事業評価業務

2021年度までは「サポイン事業(戦略的基盤技術高度化支援事業)」と「サビサポ事業(商業・サービス競争力強化連携支援事業)」として別々だった事業が、2022年度からは統合してGo-Tech事業(成長型中小企業等研究開発支援事業)になったが、評価業務の依頼は無かった。

4. 「SDGs勉強会」の開催

住み続けられるまちづくりを目指し、北九州SDGsクラブへの参画と会員の自己研鑽の場として「SDGs勉強会」を開催し、北九州市の取組へKTSとして独自の提言や課題解決を図ることにした。